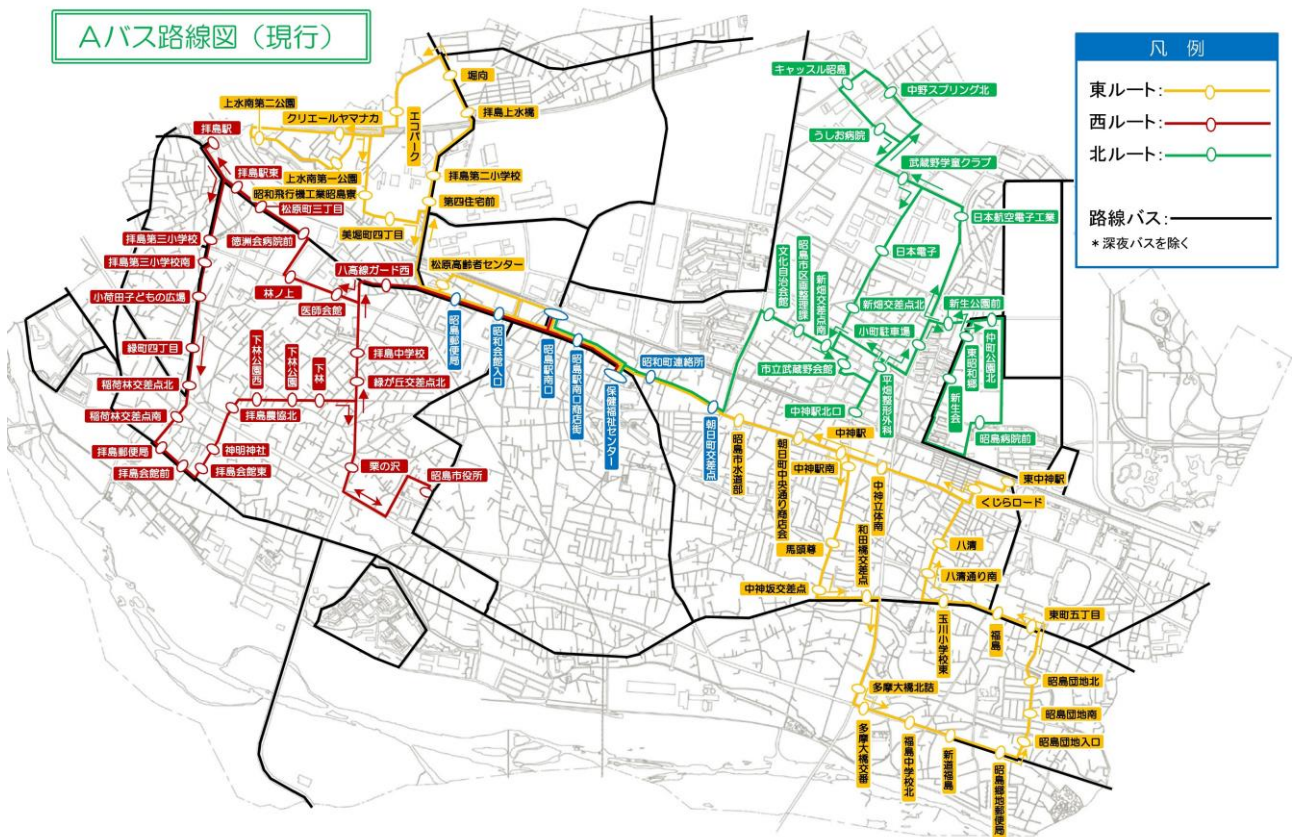


コミュニティバス（Aバス）のルート見直し（案）

1. はじめに

昭島市における主な公共交通として、市域を東西方向に走る青梅線のほか、各駅を中心に市内の要所を結ぶ路線バスが運行しております。しかしながら、公共交通が近くを走らない交通不便地域が市内に点在しています。

昭島市では、その交通不便地域の解消に向け、平成13年（2001年）度から立川バス㈱に委託し、コミュニティバス（以下、Aバス）の運行を開始いたしました。平成20年（2008年）5月には、東ルートと西ルートに加え、北ルートの運行を開始し、平成24年（2012年）7月には効率的な運行を目的にルート変更を実施し、全体で小型バス3台による3ルートでの運行となっております。



Aバスは、駅までの交通アクセスの手段であるとともに、病院、公共施設などを結ぶ日常生活の足として重要な役割を果たしています。

さらに、急速な少子高齢化、人口減少時代の到来や社会経済情勢が変化する中で、高齢者の外出支援や多くの市民の皆様の移動手段となる公共交通を確保することは重要な課題の一つとなっております。また、高齢者を含むより多くの市民の皆様が安全で便利にAバスを含めた公共交通をご利用いただき、健康的な生活を続けられることが求められております。

Aバスの役割が時代とともに重要な役割を果たすようになってきましたが、平成24年のルート変更から7年以上が経過し、現在に至るまでAバスに関するご意見やご要望が、毎年寄せられております。その中には、道路の幅が狭いことや通り抜けができないなどの物理的に実現が難しいご要望や、既に路線バスが運行していることから実現が困難なご要望もございます。また、便数が少ない路線バスの代替での運行や、運行ルートの近くにある病院付近でのバス停設置など、実現の可能性が見いだせる要望について、市では検討を進めてまいりました。

今回のルート見直しにあたっては、このような検討結果を踏まえ、バスをご利用になる市民の皆様の更なる利便性向上を図るため、ルートの見直し（案）を作成しました。また、今回から従来の3ルートに小型バス1台購入する事で1ルート追加し、全体で4ルートでの運行を予定しています。

今後、Aバスに乗降客センサーを設置し、バス停ごとの乗降客数を集計することで、ルート全体のバス停の利用状況を把握し、更なるルートの見直しに向けて活用してまいります。このことから、今回の見直し後の数年間は実証実験運行期間として位置付け、各バス停の利用客数の把握等にも努めながら、実証の検証を踏まえ、更なる見直しを予定しております。そのため、今回の見直しにあたっては、既存の3ルートの変更は必要最小限にとどめております。

2. ルート別の現状・課題・変更点

(1) 東ルート

ア 現状

現行の運行ルートは、3つの経路となっております。

はじめに、1つ目の経路は、昭島駅南口を始点とし、中神駅や東中神駅などを經由し、昭島駅南口に戻り、エコパークをはじめとした青梅線の北側を周回して、再び昭島駅南口に戻る経路です。所要時間は1時間30分程度で、1日4便となっております。

2つ目の経路は、昭島駅南口を始点とし、中神駅や東中神駅などを經由し、昭島駅南口に戻るところまでは先ほどと同様ですが、その後は青梅線の北側に行かず松原町高齢者センターを經由し、再び昭島駅南口に戻る経路です。所要時間は1時間程度で、1日3便となっております。

3つ目の経路は、昭島駅南口を始点とし、中神駅などを經由し、東中神駅を終点とする経路です。所要時間は35分で、1日1便となっております。

イ 課題

現在、3つの経路で運行しておりますが、出発時間を平均すると1時間30分程度に1回の割合で出発しているため、増便を求めるとご要望をいただいております。

また、竹口病院の付近にAバスのバス停がないため、東中神駅を下車されて病院を

利用する方を含めて、バス停を設置して欲しいというご要望もいただいております。

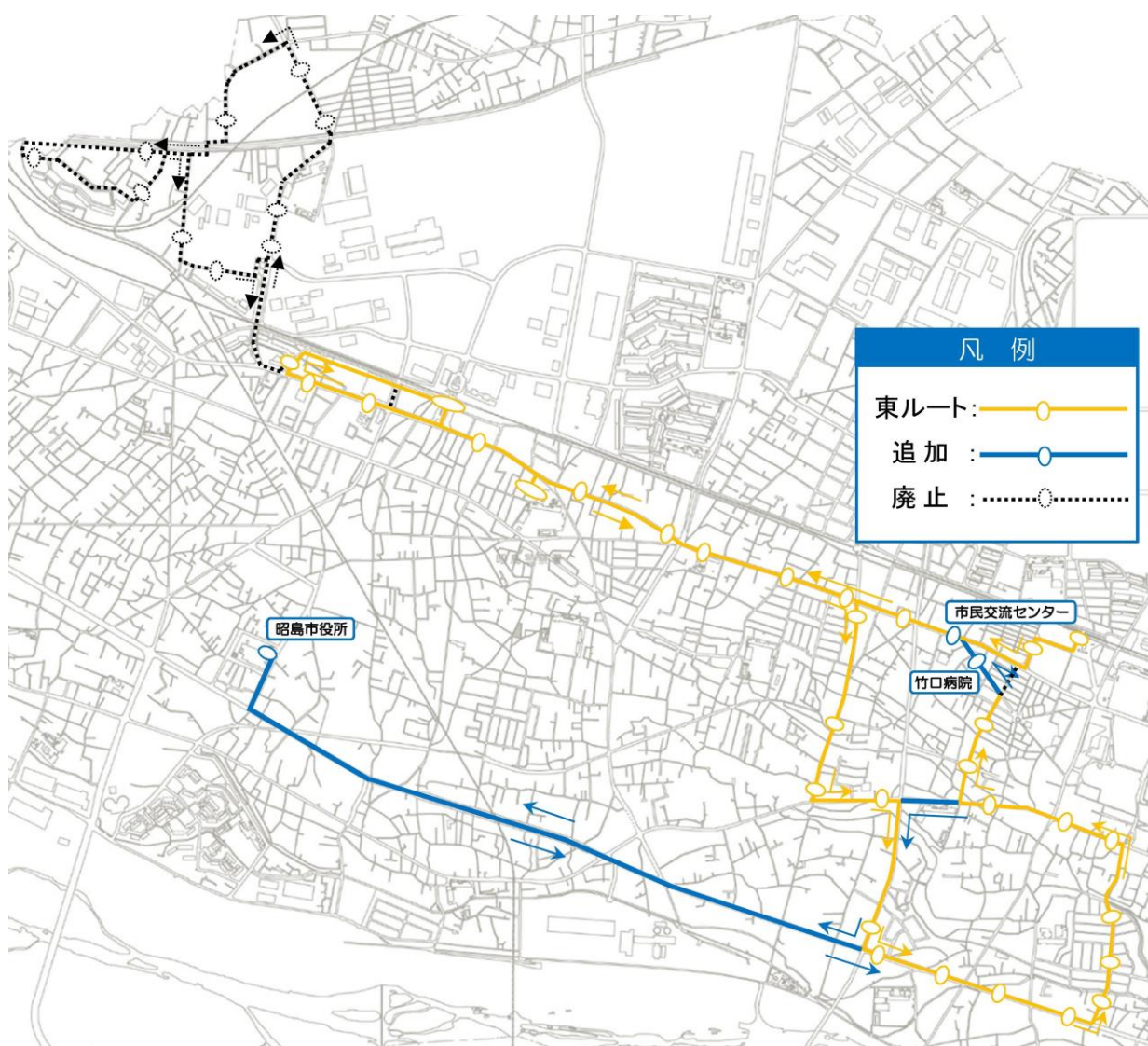
さらに、Aバスの東ルートに乗って昭島市役所へ行くには、昭島駅南口で西ルートや路線バスに乗り継がなければならず、時間もかかることから市役所への直接乗り入れ希望のご意見もいただいております。

ウ 変更点

経路については、現行の東ルートの青梅線南部のみの運行とし、青梅線北部は新たなルートとします。変更後の東ルートにおいては、1便あたりの走行距離が短くなることに連動し、運行時間も短縮されるため、数本便数を増やす予定です。

また、1便あたりの運行時間の短縮化により生み出された時間を使い、昭島市役所への乗入れを1日当たり2便程度確保する予定です。

さらに、東中神駅に向かう経路に「竹口病院」のバス停を、東中神駅から昭島駅南口に向かう経路に「市民交流センター」のバス停を設置し、利便性向上を図ります。



(2) 西ルート

ア 現状

現在の運行ルートは、2つの経路となっております。

はじめに、1つ目の経路は、昭島駅南口を始点とし、拝島駅や拝島会館前などを経由し、昭島市役所まで行き、再び昭島駅南口に戻る経路です。所要時間は1時間程度で、1日7便となっております。

2つ目の経路は、昭島駅南口を始点とし、拝島駅や拝島会館前などを経由するところまでは先ほどと同様ですが、その後は昭島市役所までは行かず下林から再び昭島駅南口に戻る経路です。所要時間は50分程度で、1日6便となっております。

イ 課題

現在、2つの経路で運行しておりますが、出発時間を平均すると1時間程度に1回の割合で出発しています。更なる増便や、双方向運行を求めるとご要望をいただいております。

また、ルート上の近くに昭島田中町住宅や都営拝島アパートがあるため、それぞれ乗り入れを求めるとご要望もいただいております。

ウ 変更点（今回は変更を予定しておりません）

増便や双方向運行、ルート延伸等の要望をいただいておりますが、今回の見直しにおいて、西ルートにつきましてはルート及びバス停の変更はございません。

はじめに、増便についてですが、西ルートは現在1台で運行可能な最大限の便数で運行しており、増車やルート縮小等を行わない限り増便は困難な状況にあります。

また、昭島田中町住宅や都営拝島アパートへの乗り入れについてですが、立川バス(株)の路線バスがそれぞれの付近を既に運行しているため、Aバスを運行させることにより競合が生じてしまいます。本来、Aバスを導入した際の目的は、鉄道や路線バスなどの公共交通機関が運行していない、交通不便地域の解消となっております。そのため、路線バスとの競合をできるだけ避けておりますので、昭島田中町住宅や都営拝島アパートへの乗り入れは困難な状況です。

(3) 北ルート

ア 現状

現在の運行ルートは、4つの経路となっております。

はじめに、1つ目の経路は、昭島駅南口を始点とし、保健福祉センター等を経由し、中神駅北口を終点とする経路です。所要時間は15分程度で、1日3便となっております。

2つ目の経路は、中神駅北口を始点とし、昭島病院前などを経由して、再び中神駅北口へ戻る経路です。所要時間は30分程度で、1日3便となっております。

3つ目の経路は、中神駅北口を始点とし、保健福祉センターなどを経由し、昭島駅南口を終点とする経路です。所要時間は20分程度で、1日2便となっております。

4つ目の経路は、前述した3つの経路を順につなげた経路がベースとなっておりますが、日本航空電子工業と日本電子のバス停の間にうしお病院等を巡回するコースを追加しております。所要時間は北ルートで最も長い1時間15分程度で、1日4便となっております。

イ 課題

現在、4つの経路で運行しておりますが、出発時間を平均すると、最終便を除き50分程度に1回の割合で出発しています。更なる増便を求めのご意見をいただいております。

また、昭和の杜病院及び昭島市の新たな施設であるアキシマエンシスの出入口付近にAバスのバス停を設置して欲しいとのご要望もいただいております。

ウ 変更点

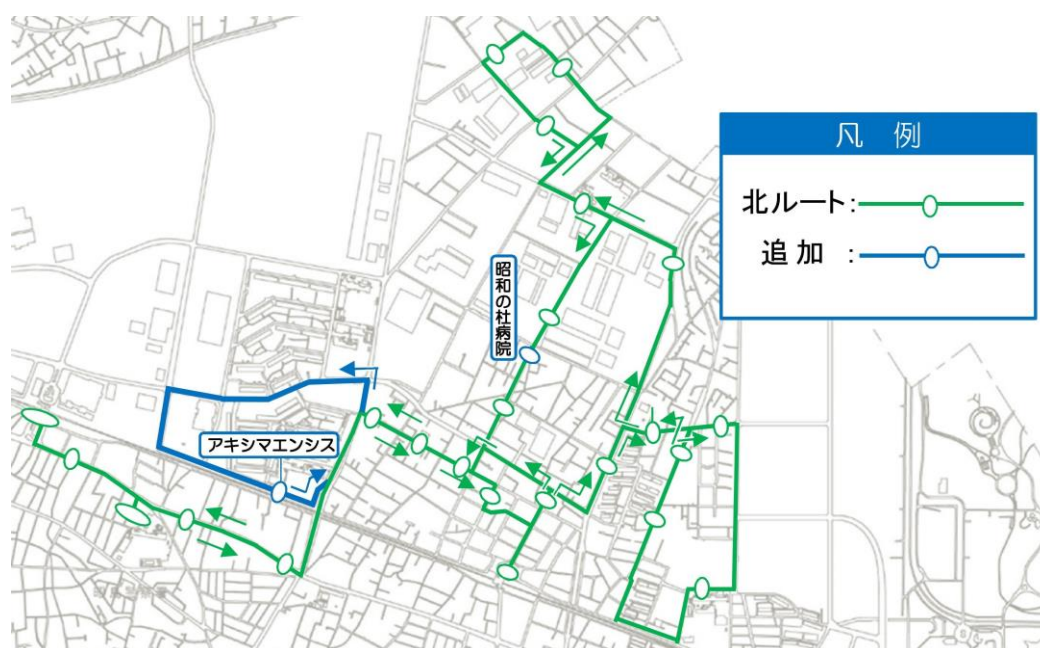
施設利用者の利便性を確保するため、北ルートでは2箇所のバス停を新設します。

1箇所目のバス停は「昭和の杜病院」で、既存のルート上に設けます。

2箇所目のバス停は「アキシマエンシス」で、既存ルート上に設けることができないため、既存ルートがこの施設まで延長します。

なお、既存ルートを延長することで、北ルート全体の走行距離が長くなるため、運行時間の若干の増加が見込まれますが、1日に運行する便数を減らさない予定です。

最後に、増便についてですが、北ルートは現在1台で運行可能な最大限の便数で運行しており、ルート見直し後においても、増車やルート縮小等を行わない限り増便は困難な状況であります。



(4) 新ルート

ア 現状

今回のAバスのルート見直しで新設されるルートですが、そのベースとなる経路が2つあります。

はじめに、1つ目の経路は、現在の東ルートの一部として主に青梅線の北側を運行するルートです。昭島駅南口を始点とし、エコパークをはじめとした青梅線の北側を周回して昭島駅南口に戻る経路です。所要時間は40分程度で、1日4便となっております。

2つ目の経路は、立川バス(株)が運行する昭島駅南口と立川駅北口をつなぐルートのうち、昭島駅南口と諏訪神社交差点付近を結ぶ経路です。所要時間は10分程度で、現在は路線バスが運行しております。立川駅北口方面に向かう便は1日3便で、昭島駅南口方面に向かう便は1日5便となっております。

イ 課題

立川バス(株)が運行する昭島駅南口と立川駅北口をつなぐ経路ですが、1日あたりの便数も少ない上に、その大半が朝の通勤時間帯に集中しています。そのため、路線バスの増便や路線バスの代替としてAバスの運行を求めるとご要望をいただいております。

また、市内の中央部にはAバスが運行していないため、Aバスの運行路線の増加を求めるとご要望や、昭島駅から市役所に向かうAバスの運行本数を増やして欲しいというご要望もいただいております。

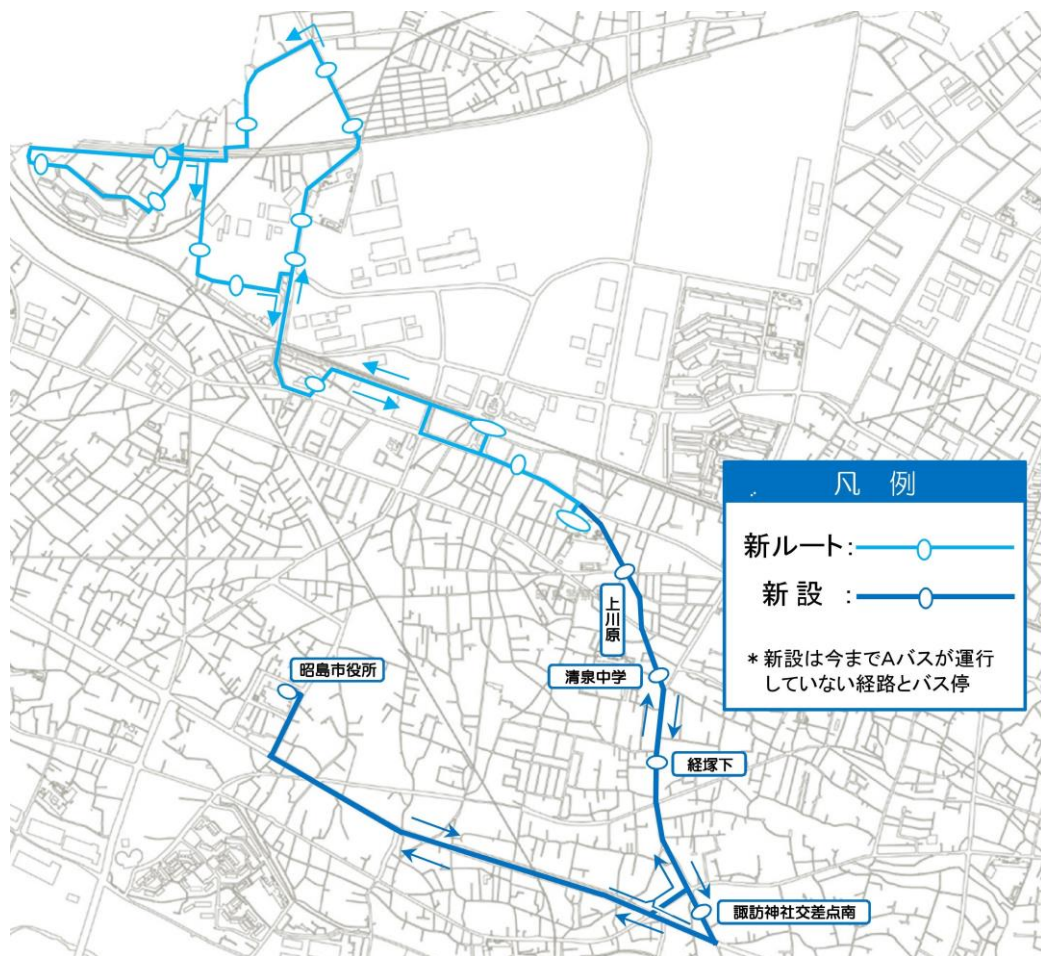
ウ 変更点

経路については、現行の東ルートにおいて昭島駅南口と青梅線北部を巡回するルートと、路線バスにおいて昭島駅南口と諏訪神社交差点付近を結ぶルートを接続したものです。

その結果、現在の路線バスと比較して、昭島駅南口と諏訪神社交差点付近を結ぶ便数を増加させることが可能となります。

また、このルートにおいても、昭島市役所への乗入れを1日当たり3便程度確保する予定です。現在のAバスでは、西ルートのみ昭島市役所へ乗り入れておりますが、ルート見直し後においては、東ルート及び新ルートからも乗り入れる予定です。

さらに、昭島駅南口と諏訪神社交差点付近を往復する際に折り返す経路に「諏訪神社交差点南」のバス停を設置し、バス利用者の利便性向上を図ります。



3. おわりに

昭島市における身近な公共交通として、Aバスの運行を開始してから20年弱が経過します。

バス運行事業者が参入しない路線の公共交通確保は、採算性の面では非常に大きな課題があります。限られた財源の中で、最大限の効果を得ることを前提としながら、今回は、市民の皆様から寄せられたご意見やご要望を中心にルートの見直し（案）を作成しました。今回の見直しを行った後も、市民の皆様の更なる利便性向上を図るために、数年間は実証実験期間としてバス停の利用状況の把握をするなど、さらに改善策を検討してまいります。